

点検・評価報告書 様式

第 5 章 学生の受け入れ(基本情報一覧)

入学試験要項

学部・研究科等の名称	URL・印刷物の名称
文学部・発達教育学部・心理共生学部・家政学部・現代社会学部・法学部・データサイエンス学部	入試ガイド、学生募集要項 https://www.kyoto-wu.ac.jp/news/details/boogco000000c5in.html
文学研究科・発達教育学研究科・家政学研究科・現代社会研究科・法学研究科	学生募集要項 https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigakuin/rhnb30000000368d-att/rhnb30000000il17.pdf
備考:	

入学者選抜に係る規程

規程名称	URL・印刷物の名称
京都女子大学入学者選抜規程	例規集
入学者選抜会議規程	例規集
備考:	

第5章 学生の受け入れ(本文)

[評定:S・A・B・C]

1. 現状分析

評価項目①

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

<評価の視点>

- ・学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと(学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程)に設定しているか。
- ・学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。
- ・学生の受け入れ方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。
- ・入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。
- ・すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

・学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと(学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程)に設定しているか。

入学者受入れの方針は、「京都女子大学人材養成・教育上の目的に関する規程」に定めており、大学ホームページ及び入試ガイド、学生募集要項において公表している(根拠資料 1-3【ウェブ】、根拠資料 2-7【ウェブ】)。同方針は、学科(学士課程)・大学院専攻(修士課程、博士課程)ごとに設定し、入学希望者に求める基礎的学力、素養、意欲等について明記している。方針は入試専門部会において全学的な視点で検討したうえで各学科・専攻の意見を聴取し、入学者選抜会議においてとりまとめ、最終的に評議会において決定している。

・学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。

各学科の方針は具体的に入学前の学習歴や求める学生像などを示しており、例えば家政学部食物栄養学科では、次のようになっている。

次に掲げる基礎的学力、素養、意欲等を備えた学生を求めます。

1. 食・栄養・健康に強い興味と関心とをもち、関連する教科の学びを実質的に修得できている。知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけている。
2. 食・栄養・健康にとどまらず、社会に関心とをもち、幅広い経験を通して学んでいる。
3. 生物と化学に関する基本的な知識がある。
4. 主体性や多様性、協調性を身につけている。
5. 修得した知識・技能を用いて社会に貢献する意欲がある。

大学院でも同様に定めており、例えば文学研究科国文学専攻では、以下のようになっている。

国文学専攻(博士前期課程)

国文学専攻は、国文学、国語学、漢文学の3分野を設け、文献資料に基づいて高度な読解力及び理論的な思考力を修得し、学問の進展に対応できる優れた知見と幅広い視野を持つ研究者、教育・文化に係わる社会的要請に応え得る高度な専門性を身につけた真に社会貢献のできる職業人を育成しようと考えています。そのために、「正解」の無い問題に取り組む強

さを持った、言葉を論理的に用いることに関心のある人材を大学院入学者選抜試験において求めています。

国文学専攻（博士後期課程）

国文学専攻は、国文学・国語学・漢文学の3分野にわたり、総合的に、更には学際的視点をも加えて、専門的分野の業務にも耐え得る高度な研究能力とより豊かな専門的知識を身につけた研究者、社会的要請に応え得るより高度な専門性と教養を身につけた職業人の育成を目指しています。言葉に対する豊かな感受性と言葉を論理的に用いることに関心があり、自分自身を強くリードするモチベーションのある人材を大学院入学者選抜試験において求めます。

・学生の受け入れ方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。

入学者選抜の制度については、学長の統括する入学者選抜会議において毎年、入試大綱原案を策定し、学部教授会及び研究科教授会での審議を経て、評議会で決定している。入試大綱に基づき、学士課程では、総合型選抜、指定校推薦型選抜、公募型学校推薦選抜、一般選抜（前期・後期）、大学入学共通テスト利用型選抜、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験、編入学試験（一般・推薦）、社会人特別選抜を実施し、修士・博士課程では、一般選抜（秋季・春季）、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜、学内推薦選抜、広東外語外貿大学大学院生特別選抜を実施している。運営体制についても、入学者選抜会議にて試験制度ごとに監督要領及び実施要項を策定し、学部教授会及び研究科教授会において内容を報告し、それらに基づき公平、公正に実施している。

・入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。

受験に際して特別な配慮を必要とする志願者のために、申請の流れ等を学生募集要項及び大学ホームページにて周知している（根拠資料 5-1【ウェブ】）。申請があった場合は、学長による承認を経て、実施要項に配慮内容を明記し、必要な人員を配置して適切に実施している。特別な配慮を行った志願者は、令和7（2025）年度入試では、14人であった。

・すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

各入試の内容や判定方法は、前年度入試結果などと併せ、学生募集要項や入試ガイドに記載し広く配付しているほか、大学ホームページにも掲載している（根拠資料 5-2【ウェブ】）。ホームページには、動画によるガイダンスや、インターネット出願ガイドなども掲載し、志願者等にわかりやすく情報提供を行っている。

評価項目②

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

<評価の視点>

・学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

・学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学人数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

令和 6（2024）年度における学士課程における学則定員に対する入学人数の平均値は「1.047」である。なお、各学部の定員充足率は、文学部が「1.032」、発達教育学部が「1.041」、家政学部が「1.070」、現代社会学部が「1.056」、法学部が「1.046」であり、令和 5（2023）年 4 月開設のデータサイエンス学部は 2 年間平均で「1.032」、令和 6（2024）年 4 月開設の心理共生学部は「1.045」であり、適切な入学人数の受入れを実現している（大学基礎データ表 2）。適切な入学人数の確保のために、入学選抜会議における合否判定原案を策定する際、各学部・学科の在籍者数及び収容定員を確認している。

大学院については、定員を充足できていない研究科が多く、令和 6（2024）年度入学生の定員充足のために、広報活動を強化した。具体的には、各研究科の紹介動画やスライドの作成、大学院入試説明動画の作成や個別説明会を実施した。その結果、前年比で国文学専攻 4 名増、史学専攻 5 名増、教育学専攻 3 名増、心理学専攻 1 名増、食物栄養学専攻 3 名増と全体として入学人数が 10 名増加した。今後も学内外に向けた広報を強化し、定員充足に向けた努力を継続していく。なお定員未充足の状況を踏まえ、現在、定員の変更を含む大学院組織の大幅な見直しを検討中である。具体的には、令和 7（2025）年度より大学院進学に興味をもつ学部 4 回生が大学院の授業を聴講できる「大学院先取り履修制度」（単位認定なし）を創設した（根拠資料 5-5）。令和 9（2027）年度のデータサイエンス研究科データサイエンス専攻の設置と、既存研究科の一部専攻の統合・廃止を将来構想会議において検討している。

評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。

学生募集および入学選抜については、学長が議長を務める入学選抜会議において志願状況及び実施状況について点検を行っている。その結果、見直しが必要と考えられる場合は、学長の指示のもと、入試専門部会・入学選抜会議および各学科・専攻での検討を経て、評議会で決定される入試大綱の変更という形で修正を行っている。たとえば令和 7（2025）年（2025）度入試（令和 6（2024）年度実施）においては、高校における新学習指導要領への対応のために一部教科の出題範囲を変更したほか、総合型入試の内容を探究型学習により適応するように変更した。また指定校型入試・総合型入試による入学人数の増加を踏まえ、入学前教育の内容を充実させるとともに、対面型イベントを学科ごとに 2 回実施し合格者と在校生が語り合う機会を設けるなど、学生の受け入れ状況の変化に対応している。

志願状況や定員確保率などのデータは、自己点検・評価の際の指標として指定され、学科レベルでの自己点検・評価でも活用されている。内部質保証推進会議は、志願者確保のため

点検・評価報告書 様式

の改善案について、各学科に助言や指導を行っている（根拠資料 2-4）。これらの内容は、必要に応じ次年度の学長方針・事業計画に組み込まれ、適切な学生の受け入れ状況の維持が図られている。

また、大手予備校等の志願者動向データや入試結果についての認識を共有し、入試制度の変更内容を周知するため、毎年、全教職員を対象に入試報告会を実施している（根拠資料 5-3）。令和 5（2023）年度は令和 5（2023）年 5 月 17 日にオンラインで実施し、前年度の入試結果の報告及び当該年度の選抜にむけての受験生動向や選抜制度の主な変更点について報告を行った。参加者数は 130 名であった。令和 6（2024）年度は、令和 6 年 5 月 8 日に実施し、参加者数は、対面 92 名、同時配信 109 名、オンデマンド視聴 53 名であった。

・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。

令和 6（2024）年度入試（令和 5（2023）年度実施）においては、前年度の延べ志願者数が前年比 79.7%と苦戦した一方、実志願者数が 92.8%であったため、延べ志願者数を増加させる施策を検討し、公募型学校推薦選抜において両日ともに基礎評価型・総合評価型を実施することとした。また一般選抜前期においても名称をわかりやすく変更したほか、試験開始時間を遅らせたり、選択科目の幅を広げるなどの施策を行っている。

その結果、令和 7（2025）年度入試（令和 6（2024）年度実施）においては、総合型選抜の志願者数は前年比 102.8%と微増し、公募型学校推薦選抜の延べ志願者数は 147.9%と増加した（根拠資料 5-4【ウェブ】）。

しかし、令和 7（2025）年度入試全体の結果としては学科別の実志願者数は前年比 90.7%と減少傾向が続いているため、令和 8（2026）年度入試（令和 7（2025）年度実施）にむけて、公募型学校推薦選抜において新たな評価型（英語外部試験評価型）を設定し、志願増につなげる取り組みを行うほか、公募型学校推薦選抜及び一般選抜前期において各方面からアクセスがしやすい「大阪（梅田）」会場を新設し、受験生の獲得を目指す計画としている。

その他、点検・評価が改善への取り組みにつながった例として、学科による情報発信の強化が挙げられる。具体的には、学長の指導のもとで進められた大学案内の作成プロセスの中で、学科での学びや研究内容が高校生に見えにくいという課題が指摘され、入試専門部会での議論を経て、各学科に大学ホームページでの積極的な情報発信が依頼された。また大学案内とは別に、学科別のリーフレットを作成し、学科での学びや研究内容が簡単に伝わるようにした。これらの取り組みは、教職員による高校訪問において活用され、好評を得ている。また学科教員対象の入試広報についての説明会において、各教員の研究内容をわかりやすくマスコミに伝えるためのレポートを作成するよう依頼を行った。レポートは PR 会社を通して報道機関に提供され、その結果、実際に取材につながるケースも出てきている。

また国際化方針を踏まえ、外国人留学生の志願者増にも取り組んでいる（根拠資料4-5）。具体的には、令和6（2024）年度入試（令和5（2023）年度実施）から出願時期を1月に変更したほか、大学院において広東外語大学とのダブルディグリー制度に基づく特別入試を実施した。出願者数は、令和6（2024）年度は1人、令和7（2025）年度は0人であった。また、留学生向けの進学ガイダンスにも参加し、本学のアピールを行い、令和7（2025）年度入試においては9名の外国人留学生出願に繋がった。今後は、本学が実施している外国人学生向けの日本語

点検・評価報告書 様式

プログラムとの連携を進めていくこととしている。

学部独自の取り組み例としては、データサイエンス学部において学部生と教員によるDSキャラバン隊（仮称）を組織し、女子中高生及び保護者を対象として、社会で必要とされているデータサイエンスをきちんと学べる学部が京都女子大学に存在することについて、PR活動を行った。具体的には、令和6（2024）年度はオープンキャンパスで参加者を対象にプログラミングによるシミュレーション実験入門を合計3日間おこなった。また学外の高校でDS学部2回生と教員によるデータサイエンスの模擬講義を行った。2件の活動では、データサイエンスを実際に学ぶ学部生が年齢の近い高校生に対してデータサイエンスを紹介することにより実感や興味をもってもらえる機会となった。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

【長所】

学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施する体制については、各学科・専攻での検討結果を入学者選抜会議で審議し、評議会で決定するという体制を整えており、適切に手続きが行われている。

また、入学者選抜においても、入学者選抜会議で原案を策定し、教授会の意見を聴取し、学長が決定する体制を整えており、適切に手続きが行われている。

収容定員についても、概ね適正に管理できており、各年度共に入学定員を下回っていないことから上記の手続きが適切であると考えられる。

【問題点】

募集広報及び選抜方法について様々な施策を行っているが、志願者数は減少傾向にある。

入試専門部会は、企画立案の役割と運営実施のための連絡組織としての役割を兼ねており、今後の整理が必要である。またホームページによる情報提供や情報更新が停滞しており、学生募集広報に活用しきれていない。留学生の受入れについては、正規留学生が今年度は微増したが、国際化方針を踏まえ、今後はもっと多くの留学生確保が課題である。

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

毎年度、各選抜における目標志願者数を設定し、その数字を目標に広報施策を実施している。年内入試への出願にむけては、全学体制での高校訪問の実施や各地方の進学相談会への参加、DM 発送で訴求を行っている。また、交通広告や SNS 広告を活用し、オープンキャンパスへの参加訴求を行っている。入試専門部会については各学科からの意見を反映させるための貴重な場であり、大学全体の運営組織の点検・見直しのなかで、規定等の整理をしていく。令和 6（2024）年度は原則月 1 回で開催し、オープンキャンパスについての意見交換や入学前教育の内容検討などを行い、各事業のブラッシュアップに寄与していることから、引き続き専門部会を開催し、有益な意見交換の場としていく。

正規留学生の志願者確保に向けて、関係部署と連携して海外指定校の検討を行うとともに、国内外の留学生対象の説明会等への参加を推進する。また、優秀な留学生を確保するため成績優秀特別奨学金制度のほか、アジア諸国・地域を対象とした減免・奨学金制度を創設し、東南アジアからの留学生誘致に今後一層取り組む。